

NEW! 2010年 2月21日
杉戸キリスト教会主日礼拝式メッセージ
(野町 真理)

聖書とは

聖書箇所：使徒17:1－15

- 17:1 彼らはアムピポリスとアポロニヤを通して、テサロニケへ行った。
そこには、ユダヤ人の会堂があった。
- 17:2 パウロはいつもしているように、会堂にはいって行って、三つの安息日にわたり、聖書に基づいて彼らと論じた。
- 17:3 そして、キリストは苦しみを受け、死者の中からよみがえらなければならないことを説明し、また論証して、
「私があなたがたに伝えているこのイエスこそ、キリストなのです。」と言った。
- 17:4 彼らのうちの幾人かはよくわかって、パウロとシラスに従った。
またほかに、神を敬うギリシヤ人が大ぜいおり、貴婦人たちも少なくなかった。
- 17:5 ところが、ねたみにかられたユダヤ人は、町のならず者をかり集め、暴動を起こして町を騒がせ、
またヤソンの家を襲い、ふたりを人々の前に引き出そうとして搜した。
- 17:6 しかし、見つからないので、ヤソンと兄弟たちの幾人かを、町の役人たちのところへひっぱって行き、大声でこう言った。
「世界中を騒がせて来た者たちが、ここにもはいり込んでいます。
- 17:7 それをヤソンが家に迎え入れたのです。
彼らはみな、イエスという別の王がいると言って、カイザルの詔勅にそむく行ないをしているのです。」
- 17:8 こうして、それを聞いた群衆と町の役人たちとを不安に陥れた。
- 17:9 彼らは、ヤソンとそのほかの者たちから保証金を取ったうえで釈放した。
- 17:10 兄弟たちは、すぐさま、夜のうちにパウロとシラスをベレヤへ送り出した。
ふたりはそこに着くと、ユダヤ人の会堂にはいって行った。
- 17:11 このユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、
非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べた。
- 17:12 そのため、彼らのうちの多くの者が信仰にはいった。その中にはギリシヤの貴婦人や男子も少なくなかった。
- 17:13 ところが、テサロニケのユダヤ人たちは、パウロがベレヤでも神のことばを伝えていることを知り、
ここにもやって来て、群衆を扇動して騒ぎを起こした。
- 17:14 そこで兄弟たちは、ただちにパウロを送り出して海まで行かせたが、シラスとテモテはベレヤに踏みとどまった。
- 17:15 パウロを案内した人たちは、彼をアテネまで連れて行った。
そしてシラスとテモテに一刻も早く来るように、という命令を受けて、帰って行った。

主題：聖書は主イエスがキリスト(救い主)であることを証言している

導入：聖書とは一有名人の聖書観

聖書は、多くの人々に影響を与えてきた。人類を動かしてきたものは聖書である、と言っても過言ではない。

★アメリカにおける有名人

ジョージ・ワシントン：アメリカ合衆国初代大統領。建国の父として、国民から高い尊敬を得ている。

「神と聖書なしに、この世を正しく統治することは不可能である」。

アブラハム・リンカーン：アメリカ大統領。16代。奴隷解放の父。幼い頃から、母に聖書を読み聞かされて育った。

「聖書は、神が人間に賜った最もすばらしい賜物である。人間にとって望ましいものはすべて聖書にある。

聖書はそれ自身の権威を裏づける無数の証拠を持っている。」

「私は、聖書を読むことで多くの益を得ている。この書から、自分にできる限りを理解力によって、また残りを信仰によって受け入れるなら、あなたはより良い人間として生き、また死ぬことであろう。私は、聖書をこれまでに神が人類に与えた最上の賜物と信じる。世界の救い主から発する一切のよきものは、この書を通してわれわれに伝達される」。

「私は聖書の学びに夢中になって没頭している。私はそれが神のことばであると信じている。なぜならそれは私がどこにいるのかを探し出すからだ。

どんな世界の歴史におけるよりも、聖書の中には確かな真理が存在する」。

セオドア・ルーズベルト：アメリカ大統領。26代。

「聖書に精通することは、大学教育にまさる価値がある。」

「聖書を教えない単なる教育は、無責任な人に鉄砲を渡すようなものである。」

ベンジャミン・フランクリン：一八世紀アメリカの政治家、科学者、著述家。

図書館、大学の設立などの推進、郵便事業の改善、その他多くの公共事業をなした。避雷針の発明者。

「青年よ、あなたへの私の忠告は、聖書を知れ、そして聖書をかたく信ぜよ、ということである」。

トーマス・エジソン：生涯におよそ1,300もの発明を行ったアメリカの発明家、起業家

「光、暖かさ、健康、力はすでにもう存在しているのですから、スイッチを入れさえすればよいのです。電線そのものは別に何でもありません。絶縁された二、三本の銅線にすぎないのです。しかし、その線の中をプラスとマイナス二つの電流が流れると、すべてが変わってきます。暗黒は失せ、冷氣はなくなり、仕事もたやすくできるようになります。聖書は単なる本にすぎませんが、神の御霊によって靈感されている聖書の各ページを、神の義と愛とが、プラス・マイナス二つの電流のように流れ、キリストの十字架で合流しています。聖書だけが、私たちに救い主を示してくれます。そのことによって聖書は、私たちの全生涯を造り変えることができる力の泉となるのです。あなたは誘惑にあい、疑惑と敗北と弱さに満ちたご自分の生活に疲れてはいませんか。また、不安や心配にあきあきしてはいませんか。スイッチを入れなさい。聖書を読みなさい。」

ヘレン・ケラー：アメリカの教育家・社会福祉事業家。自らも重い障害を背負いながらも、世界各地を歴訪し、身体障害者の教育・福祉に尽くした。

「私が毎日、もっとも愛読する書物、それは聖書です。私の辞書に“悲惨”という文字はありません。

聖書はダイナミックな力であり、変わる事のない理想を示すものです。」

ウィリアム・F. オルブライト:アメリカのセム語・旧約学・聖書考古学者。幾つもの古代語を自由にあやつった。

「聖書の記述中、問題となっている大きな点は全部歴史的であることが、証明されている」。

★イギリスにおける有名人

アイザック・ニュートン:一七～一八世紀イギリスの物理学者。万有引力の法則発見者。

「いかなる世界の歴史におけるよりも、聖書の中には、より確かな真理がある」。

アンブローズ・フレミング:(日本の高校生を悩ませる「右手の法則」「左手の法則」で有名な英国の物理学者)

「四つの福音書にあるこれらの出来事(復活とその他の奇跡)の記録を研究してみなさい。

そうすれば、あなたは確証済みの科学的事実や科学の原理の中には、何一つ、奇跡を信じることを妨げるものはない、ということがわかるであろう。」

ウィリアム・ハーシェル:一八～一九世紀イギリスの天文学者。天王星の発見者。多くの天文学的発見をなし、恒星天文学の祖。

「人間の発見はすべて、ただ、聖書に含まれる真理を確証するのに役立つものであると思われる。」

ジョン・ラスキン:一九世紀イギリスの美術評論家。社会評論家。慈善事業にも関心を持ち、莫大な私財を投じた。

「私が著作したことには何か功績があるとすれば、それはひとえに私が幼かった時、

母が日ごとに聖書のある箇所を読み聞かせ、暗唱させてくれたおかげである」。

アルフレッド・テニスン:一九世紀イギリスの有名な詩人。

「聖書を読むこと、それが教育である」。

チャールズ・ディケンズ:一九世紀イギリスの小説家。「クリスマス・キャロル」「オリバー・ツイスト」などの代表作がある。

「新約聖書は、この世界でいまだかつてなかった、また、今後もあるとは思えぬ最善最良の書である。」

トマス・ハックスリー:一九世紀イギリスの生物学者、進化論者。進化論を推進した人物のひとりだが、聖書についてこう述べた。

「聖書は貧しい者、しいたげられた者の大憲章である。人類は聖書を捨て得る立場にはない」。

W. E. グラッドストン:イギリスの政治家。爵位を授けられようとしたが自ら辞退し、偉大な平民として一生を終えた。

「私はこの時代に、偉い人と呼ばれる95人の人を知っている。うち87人は、聖書を奉ずる人でした。

聖書の特色はその特異性にあり、他のあらゆる書物を、無限に引き離している」。

ウインストン・チャーチル:第二次大戦中のイギリスの首相。イギリス人に勇気を与え、ヒトラーとの戦いを勝利に導いた。

「私たちは確信をもって、聖書という『ゆるがない岩』の上に憩うのである」。

★ドイツにおける有名人

マルティン・ルター:ドイツの神学者、説教者、宗教改革者

「聖書は古いものでなければ、新しいものでない。聖書は永遠のものである。」

「聖書は、生きている。聖書は私に語りかけてくる。聖書には足があり、私を追いかけてくる。聖書には、手があり、私を掴まえる。」

インマヌエル・カント:ドイツの哲学者。

「聖書の存在は、人類がかつて経験したうちで最も大きい恵みである。その価値を減らそうといかなる企ても、人類への罪悪となる。」

ゲーテ:一八～一九世紀ドイツの詩人。多くの詩や「ファウスト」などの代表作がある。

「私が獄につながれ、ただ一冊の本を持ち込むことを許されるとしたら、私は聖書を選ぶ。」

「人類の知的文化が進歩し、自然科学が進んでその広さ深さを加え、またいかに人類の心が望むままに広くなろうと、

福音書から輝き出るキリストの高潔さと、道徳的修練を越えていくことはないであろう」。

G・E・レッシング:一八世紀ドイツの劇作家、思想家。ドイツ国民文学の創造において、目ざましい活躍をした。

「宗教は、聖書が説いたがゆえに真理なのではなく、真理なるがゆえに聖書が説いたのである」。

★フランスにおける有名人

ナポレオン:一七～一八世紀のフランスの軍人、政治家。

クーデターにより独裁者となったが、わずかな年月帝位にあっただけで、最後はセントヘレナ島で没した。

「聖書はただの書物ではない。それに反対するすべてのものを、征服する力を持つ生き物である」。

ヴィクトル・ユーゴー:(フランスのロマン主義詩人、小説家)

「イギリスは二つの書物を持っている。その一つは聖書であり、残りはシェイクスピアである。

イギリスがシェイクスピアを作ったのだが、聖書が、そのイギリスを作ったのである。」

サルトル:(フランスの哲学者、小説家)

「私は自分が偶然の産物、宇宙のほこりだとは思わない。

むしろだれかに期待され備えら予示された存在、つまり創造者である神だけがここに置くことができた存在だと思う。」

★その他の国における有名人

マハトマ・ガンジー:二〇世紀インドの政治家。非暴力による不服従運動によって、インドを独立へ導いた。

「私の生涯に最も深い影響を与えた書物は、(新約)聖書である」。

ボリス・P. ドツェンコ:(元ソ連科学アカデミーの戦略核ミサイル開発者、元キエフ物理学的研究所原子力研究部長、カナダに亡命)

「自己中心的で表面的な知識は無神論に至り、客観的で深みのある真の研究は神への信仰に至ると言えましょう。

この世に与えて下さったことばの書である聖書に注意を向けて下さった神に感謝します。」

アウグスティヌス:(古代キリスト教の神学者、哲学者)

「旧約聖書の中に新約聖書は、隠されている。新約聖書の中に旧約聖書は開かれている。」

★日本における有名人

三浦綾子:

「私は13年もの長い病気もした。肉親や恋人の死にもあった。人間関係の悩みにもあった。

だが、聖書を知ってからのそうした悲しみや苦しみは、以前の悲しみや苦しみとは全く別の意

味を持つようになった。」

(「新約聖書入門」 光文社発行)

内村鑑三:

「真理を証するもの三つあり、すなわち天然と人と聖書」

南原繁 なんばらしげる:(政治学者、東京大学総長)

「どれほど神仏に祈っても、しよせんは自分の無事幸福か、せいぜい家内安全を願うことに止まった私の心が、いまや、(聖書の語る)自分の罪を知り、それからのあがないとゆるし、神の御旨へと向けられるようになった。…私は、家庭において日曜日ごとに家族らに聖書の研究や話をした…」

矢内原 忠雄:(経済学者、東京大学総長)

「聖書は学者の書であり、無学者の書であり、万人によって万人に学ばれるべく、万人によって解されるところの人類の書なのである。われわれが謙虚になって聖書をひもといて見れば、それ(知識)は最も基本的な形において聖書に示されておる。これを今日の社会情勢と、人間の知識の進歩と、世界の複雑性に照らし合わせて応用すればよいだけです。根本は聖書に示されている通りであります。」

山室軍平:明治時代、「救世軍」日本支部司令官として伝道に従事し、婦人ホームの建設、免囚保護事業、

労作館の創設、廃娼運動などの社会事業の面でも多くの業績を残した。

「聖書は世界無二、宇宙第一の書物である」。

淵田 美津雄 ふちだみつお(旧帝国海軍のパイロットで真珠湾攻撃の総指揮官として有名、戦後にクリスチャン、キリスト教伝道師となる)

「私は熱心に聖書を読みました。私の人生観はキリストによって完全に変えられました。」

隅谷 三喜男(経済学者、東京大学名誉教授、東京女子大学学長)

「旧約聖書も新約聖書も、神が歴史の中で働いてきたことを告白している書物です。」

※ 隅谷氏は、成田空港問題について、解決と和解に尽力されたことで知られています。

三笠宮 崇仁殿下みかさのみや たかひと(大正天皇第四皇子、今上陛下の叔父上):

「私は戦時中に敵を知ろうと、キリスト教を調べ聖書にぶつかった。初めは文明を誇る白人がなぜこんなものを信じるのかと笑ったが、聖書が歴史的事実と知ったとき、聖書から離れられなくなった。」

※ 三笠宮殿下は、古代オリエントを専門とする歴史学者として有名。この言葉は殿下がなぜ歴史を学ぶようになったかについて述べたときのもの。

書き記された神の言葉・啓示の書

神からのラブレター(愛の手紙)

人生の取り扱い説明書・人生の羅針盤

聖書は人生の取り扱い説明書であり、そこには私たちの生きる理由、人生のからくり、避けるべきこと、将来に何を期待すべきかなどが説明されています。

本論:

17:1 彼らはアムピポリスとアポロニヤを通して、テサロニケへ行った。

そこには、ユダヤ人の会堂があった。

17:2 パウロはいつもしているように、会堂にはいって行って、三つの安息日にわたり、聖書に基づいて彼らと論じた。

17:3 そして、キリストは苦しみを受け、死者の中からよみがえらなければならないことを説明し、また論証して、

「私があなたがたに伝えているこのイエスこそ、キリストなのです。」と言った。

パウロはいつもしているように、会堂にはいって行って、三つの安息日にわたり、聖書に基づいて彼らと論じた。そして、キリストは苦しみを受け、死者の中からよみがえらなければならないことを説明し、また論証して、「私があなたがたに伝えているこのイエスこそ、キリストなのです。」と言った。使徒17章2－3節

パウロたちはテサロニケとベレヤにて、ユダヤ人の会堂に入り、聖書に基づいて論じ、神のことはを宣べ伝えました。聖書は今も、キリスト(救い主)について、以下のことを明確に語っています。

1、救い主は苦しみを受けなければならない。

海や川でおぼれている人を救うためには、そこに飛び込まなければならない

険しい山で遭難した人を救うためには、そこに登っていかなければならない

火に囲まれた人を救うためには、火の中に飛び込まなければならない。

罪のための身代わり 罪の借金の肩代わり

2、救い主は死者の中からよみがえらなければならない。(そして栄光にはいる)

死の向こうに確かな救いを備えるため。永遠のいのちを与えるため。復活の希望、天において再会することのできる希望のため

3、使徒たちが宣べ伝えているイエス。すなわち、十字架の苦しみを受けて死なれ、

墓に葬られ、3日目によみがえられて今も生きておられる主イエスこそ、まさしくキリスト・救い主である。

日本同盟基督教団の信仰告白は、聖書に関する以下の告白から始められています。

1、旧、新約聖書66巻は、すべて神の靈感によって記された誤りのない神のことばであって、救い主イエス・キリストを顕わし、救いの道を教え、信仰と生活の唯一絶対の規範である。

祈り:

私たちの主イエス・キリストの御名によって、祈ります。
アーメン。

[The Gospel of Jesus Christ \(Shinri Nomachiのホームページ\)へ](#)